

令和4年度 第1回 木曾川水系流域委員会 【横山ダムにおける発電に資する放流活用操作について】

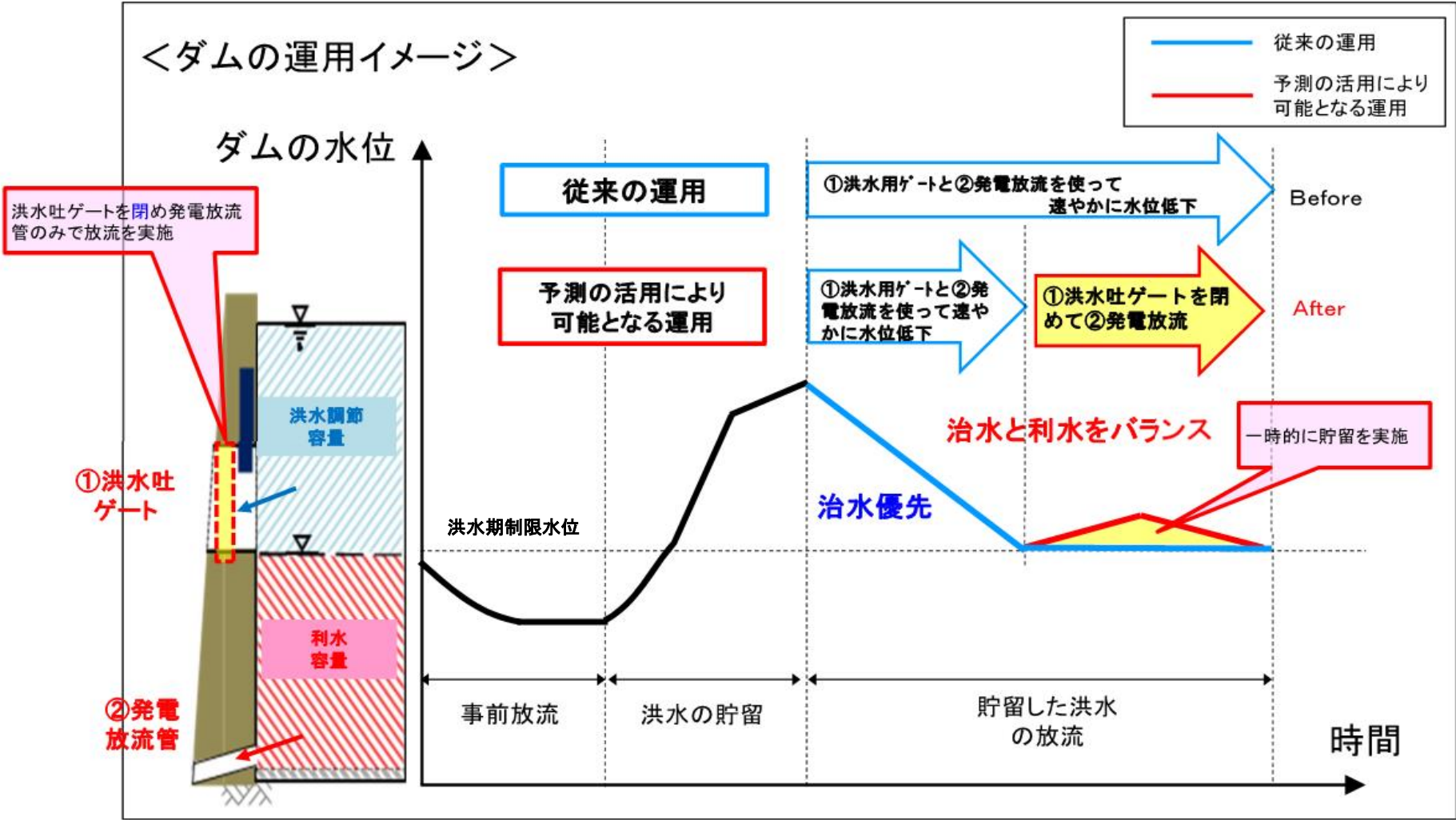
令和5年2月17日

国土交通省 中部地方整備局

木曾川水系ダム統合管理事務所

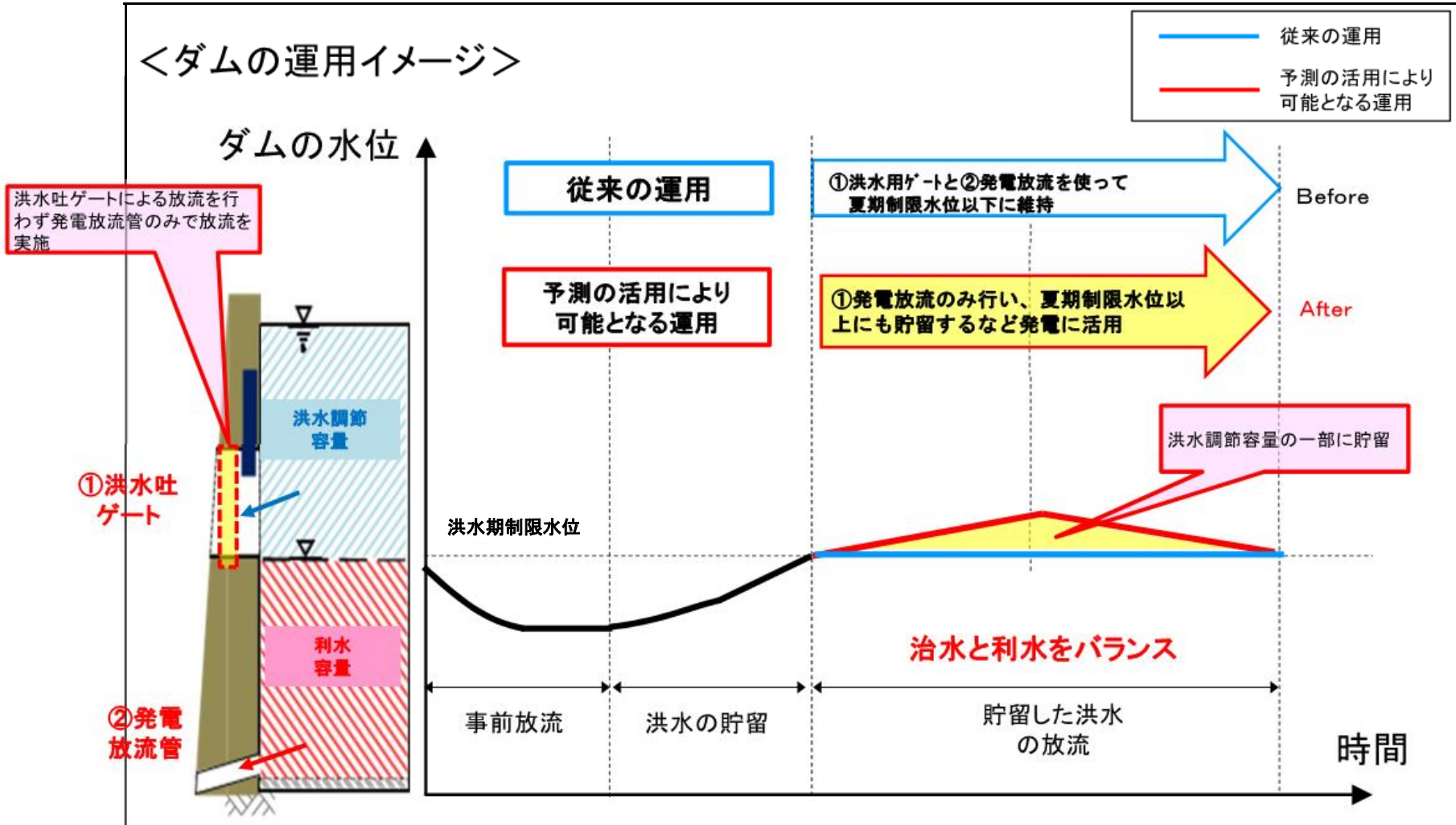
横山ダムにおける発電に資する放流活用操作(洪水後の貯留水を活用)

- 従来どおり洪水調節を行った後に、洪水調節容量を回復するために洪水吐ゲートから放流を行い洪水期制限水位程度まで低下させる。
- この段階で、最新の気象予測技術を活用し、洪水に支障のないと判断された場合に、洪水吐ゲートを閉じて発電放流のみの放流に切り換える。
- これにより、洪水調節容量の一部に貯留するなど、可能な限り発電に活用しながら放流する。



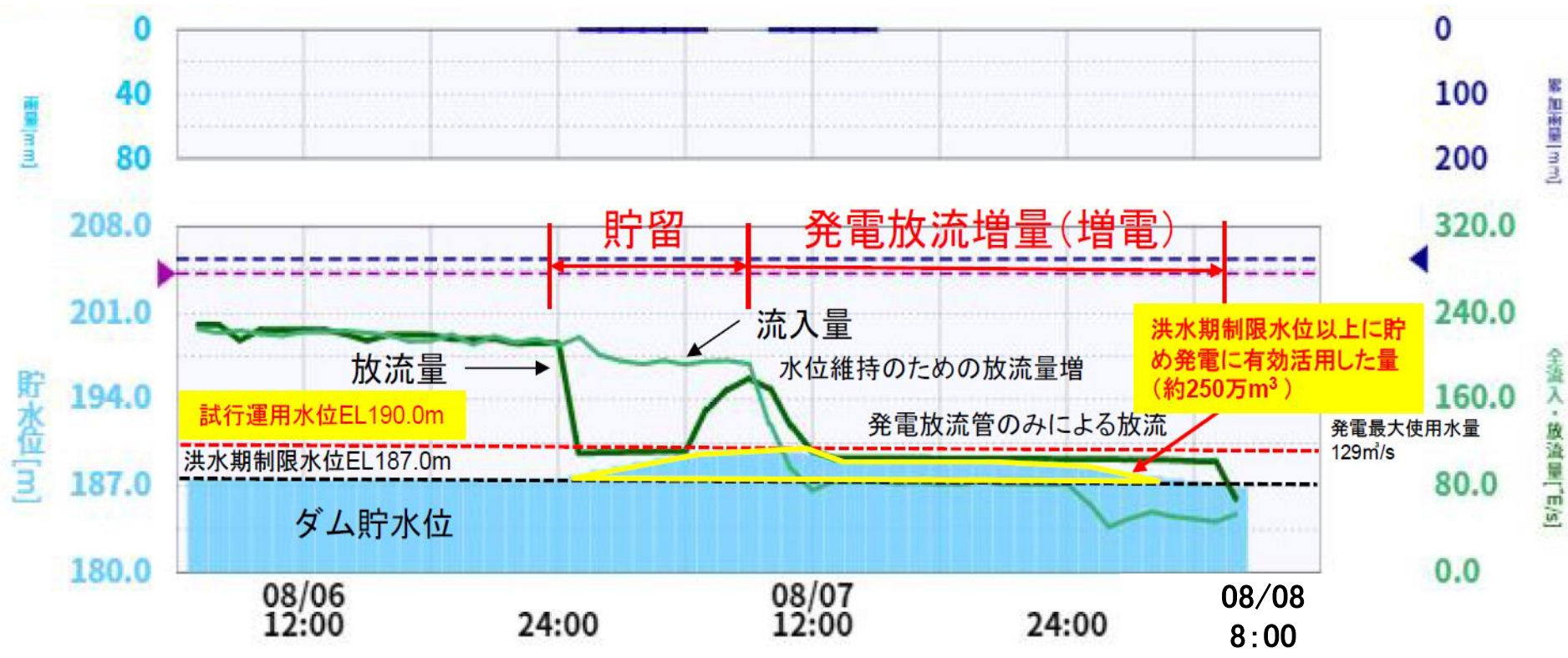
横山ダムにおける発電に資する放流活用操作(洪水とならない出水を活用)

- 従来は、ダムへの流入量が洪水量に達しない出水においては、流入量が発電の最大放流量を上回った場合に、ダムの貯水位を洪水期制限水位以下に維持するため洪水吐ゲートからも放流を実施。
- 活用操作では、最新の気象予測技術を活用し、洪水に支障がないと判断された場合には、洪水吐ゲートによる放流は行わず、発電放流のみで放流を行い、洪水期制限水位以上の洪水調節容量の一部に貯留するなど、可能な限り発電に活用する。



発電に資する放流活用操作の試行

- 横山ダムでは令和4年の出水期から、洪水調節を行った後や洪水に至らない出水時に、洪水対応に支障のない範囲で、隣接する中部電力の横山発電所で有効に発電しながら放流する取組を行っている。
- 令和4年8月4日の出水後にこの取組を行い、通常のダム運用と比べて約250万m³の水を発電放流に活用した結果、約350MWh(約1,300戸の家庭を1ヶ月賄うことができる量に相当)を増電することができた。
- 令和4年は、8月4日出水と9月19日出水の2回、この取組を行っている。



横山ダム ダム諸量グラフ